
ねこの思い出4 「イヤだニャン製造家族」

西宮尚

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ねこの思い出4「イヤだニャン製造家族」

【Nコード】

N5745D

【作者名】

西宮尚

【あらすじ】

ねこの思い出18歳8ヶ月で逝ってしまったねことは、いろいろな思い出がある。何故、うちのねこは、「イヤだニャン」になってしまうのか？その理由をつづります。

(前書き)

18歳8ヶ月で逝ってしまったたねこの思い出をつづります。
そのねこは、最高にかわいい容姿と最悪な性格をしていました。

うちで飼われたねこは、間違いなく「イヤだニャン」になる。
イヤだニャンの別名は、ヒネネコ、スネネコなどがある。
とにかく、イヤだニャンとは、人に甘えることも媚びることもなく、
さめた目で人を見るような猫のことを言う。

でも、ねこのイヤだニャンぶりは、他の猫より群を抜いていた。
普通の猫がお腹を空かせた時、飼い主の足にすりよって甘えた声で
鳴くだろう。

でも、ねこは私たちの前で後ろ向きに座り、不愉快そうに一度しっ
ぽをパタンと投げ出す。

これではんだとわかる私たちも悪いとは思う。
でも、ねこにとって重要なごはんについても、このような感じであ
ったから、他のことについては、もっとクールな関係であったこと
は推察できると思う。

3

何故、そんなねこになってしまうのか。

家族に言わせると、私がかまい過ぎるから、ということだ。

確かに、私は、ねこが顔を洗っているのがかわいくて、その仕種を
ジーツと見つめてしまう時がある。

それをウザく思ったのか、人前で顔を洗わなくなる。

でも、私は平日には会社に行っているし、休日も何かと出かけてい
る。

自営業でいつも家にいる家族と比べて、ねこという時間が短い私だ
けがそんなに悪影響を及ぼしているのか？

その疑問が解決する日がきた。

その日は、有休を取った日だった。

年末近くであったが、仕事も立て込んでいなかったため、休みを取って一日年賀状を書くために費やした。

私が居間でこたつに入っている間、ねこは暖かいこたつに入らなかった。

工場とトイレの間の廊下に置かれたカラーボックスの上に、ねこ用のダンボールが置かれている。

その中に、当然のように座っている。

居間からはそれが観察できる場所であったので、私は自分の仕事をこなしつつ、ねこの様子を見守っていた。

時間が経って、母がトイレに行く途中でねこを見つけた。

そして散々撫でていった。

そのうち、父も来た。

父もねこを撫でてからトイレに行った。

そして、兄も。

やはり、ねこを撫でて行った。

ねこは、このためにここにいたということに気が付いた。

ねこは自分の仕事をわきまえていたのだ。

いえの人間は、私がいる時は抑えていたが、ねこを見た時には撫でずにはいられないのだ。

こんなにも、ねこをかわいがりすぎる家族がいたら、イヤだニヤンにもなってしまうだろう、と、思った。

ねこから甘えることなく、人間から甘えてくる家族なのだから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5745d/>

ねこの思い出4「イヤだニャン製造家族」

2011年10月4日00時02分発行